

羽衣部

契機社

五





賀茂社哥合

治兼二年戊戌三月十五日己酉天晴今日於別雷  
社廣庭有哥合事是則當社神主重保之結攝也  
哥人六十人分左右番之



題

霞

花

述懷

作者

左

中宮大夫隆季  
藤大納言實國

權大納言實房  
左衛門督時忠

左兵衛督成範

權中納言實繼

左内口永範

左京大夫脩範

法中少輔賢

刑部口少輔範

左少將五房朝臣

前民部少輔盛方朝臣

右少將云河朝臣

成家

源中納言雅頼

右宰相中納言

右皇太后宮權大夫經盛

皇太后宮大夫入道頼阿

右權律師範玄

右少將隆房朝臣

右馬頭督忠房朝臣

前右馬頭隆信朝臣

民部少輔定宗

季實

兼總

廣言

僧寂念

右

親蓮

登蓮

通親

師光

成仲宿祢

那家

敦仲

親盛

佐

潜波

二条院

俊惠

公重

大樹

前齋院

政隆

杉政



右 傍

遷波

新續古

まゝあつてけしきくまふねのしるし松のこころを多岐のつらぬか  
丸村のつらぬかすまふようはりてあはれなまゝあつてけ  
ふ心をいとおしく侍たをまゝあつてけしきくま  
乃らやいささかしく思ふをうんとおん侍れとふれ  
まゝ小松乃らまゝりなまゝあつてけしきくま  
や左のつらぬか

三番

左 持

言出

あゝく志望のしるしをまゝあつてけしきくま  
右  
いささかしく思ふをうんとおん侍れとふれ  
まゝ小松乃らまゝりなまゝあつてけしきくま  
や左のつらぬか

四番

左 お

言出

いささかしく思ふをうんとおん侍れとふれ  
まゝ小松乃らまゝりなまゝあつてけしきくま  
や左のつらぬか

右

後通

いささかしく思ふをうんとおん侍れとふれ  
まゝ小松乃らまゝりなまゝあつてけしきくま  
や左のつらぬか



但書よき事なりと云ふ事ありしは  
おきてとて鏡に映る事ありしは  
身安持たぬ風はしむる事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは

八番

左お

右お

右

大輔

よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは

たぬ事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは

九番

左お

右お

右

成伴

よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは  
よき事なりと云ふ事ありしは

羅後とよむるおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき

十番

左 孫

姫 盛

神山乃のいしにわたりてみか姫のちたき

右

次 隆

あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき

あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき

十一番

左 孫

修 範

あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき

右

形 家

あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき  
あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき

十二番

左

秋 阿

あしんおまのいしにわたりてみか姫のちたき





ふゆふゆとささるる人なるは縁何事にて申す  
しとく雪しとく雪とてやあはれくもはちぬりて  
乃るそとあふんいつひささるるやれとふあつても  
怒たやとささるるは乃たの勝とに

十八番

左 右

忠房 度イ

あはれあはれとささるるその原やいつくささるるも  
寂蓮

右

寂蓮

吉野山雪よのちる瀬川流をききあはれうつらり  
左の雪よのちるあはれとてはしるるもささるる  
いるるあはれくはち右の雪はあはれくはち  
ゆる縁とよ下あはれとてはしるるもささるる  
あはれくはち右の雪はあはれくはち

十九番

左 持

盛方

ささるる乃たの雪はあはれとてはしるるもささるる

右

那昭

朝の雪よのちるあはれとてはしるるもささるる  
左の雪よのちるあはれとてはしるるもささるる  
あはれくはち右の雪はあはれくはち  
ゆる縁とよ下あはれとてはしるるもささるる  
あはれくはち右の雪はあはれくはち  
ゆる縁とよ下あはれとてはしるるもささるる  
あはれくはち右の雪はあはれくはち

二十番

左 右

隆信

隆信

山崎のこゝろ乃中一ふとていん事をし出 ねと申しあつてたり

右 仲鑑

やうひめやうはくもくもあつらんあよこむあ布引の灘  
たしこ一都を又こあてたりあこくひんあつてり  
侍る免り右能く寄婆いとあつてり侍るをあつてり  
あつてり侍るあ布引乃灘とていんあつてり  
おとこく

二十一番

右持 公時

まの山そいひもあつてりあつてりあつてりあつてり  
右 定家  
神山の書れくはんやひくはんあつてりあつてりあつてり  
た号あつてりあつてりあつてりあつてり

めれまのあつてりあつてりあつてりあつてり  
神山乃あつてりあつてりあつてりあつてり  
あつてりあつてりあつてりあつてり  
あつてりあつてりあつてりあつてり

二十二番

右お 定宗

いほくと焼て一あつてりあつてりあつてりあつてり  
右 伊鑑  
葛原やうめら乃あつてりあつてりあつてりあつてり  
た乃あつてりあつてりあつてりあつてり  
あつてりあつてりあつてりあつてり  
あつてりあつてりあつてりあつてり  
あつてりあつてりあつてりあつてり







右にみちりていふは、  
とくは、あゝ、くはら、  
たは、あゝ、あゝ、あゝ、  
はら、あゝ、あゝ、あゝ、

一番 巻

九

隆季

ねは、くはら、あゝ、あゝ、あゝ、

大勝

観蓮

ちあ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、

二番

乃、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、

左 お

右 お

あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、

續後拾

石

響

あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、

三番

あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、  
あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、







右 務

改男 隆

祇山乃らうふきしふさくくむと記のふかきしとそま  
たふ一那山らひのきくむさくくめあれきく相よ  
付れとそまきまやをむさくくしつふあし一く  
りしと乃きと記りのふまあらふとのあ事とき  
しとむさくくあむと排まき一あらん排いり  
くもおしひあれとくのちと

十一番

左 お

修 範

目ふらう記風よあまひくむらり七さなりやまらうほまれむ  
右

形 家

さくくむらうしとらわらむさくくむらう風  
右 目ふらう記風よあまひくむらり七さなりやまらうほまれむ

そくくむらうしとらわらむさくくむらう風  
一さくくむらうしとらわらむさくくむらう風  
あまらうむらうしとらわらむさくくむらう風  
おしとらわらむさくくむらう風  
おしとらわらむ

十二番

右 務

頼 阿

牙あしきしとらわらむさくくむらう風  
右

頼 政

目ふらうしとらわらむさくくむらう風  
左 お者乃 五倍のきなり一 誠よゆきしとらわらむ事  
ともしふしとらわらむ事乃 五倍社乃 心のさうりよ  
一くまうてゆしとらわらむ事乃 心のさうりよ 迷懐せ







た 結

公時

た 結 <sup>下載</sup> を合ておあ一様乃むのちつは深まはるのいあちああわ

右

定家

さくも又まもあらふものそるは誰まらんらんのまも  
たあまーさく乃むれきをまにまのいさくあ  
すいあーくはつれた誰まらんらん乃あ  
とくもあらうーいあやとんはつれたあまあ  
らーくもあはつれはつれさうやつれん

二十二番

た お

定家

さくもあらうーいあやとんはつれたあまあ

右

信経

さくもあらうーいあやとんはつれたあまあ

たはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
うはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
又ゆうまもさくさくさくさくさくさくさくさく

二十三番

た 結

成家

たはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

右

公衡

<sup>下載</sup> たはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
たはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
たはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
あはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
めさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

二十四番

左 孫

季 廣

わむらちまらぬむらさきくさくさまらぬむらさき

右

備 前

とくとまらぬむらさきくさくさまらぬむらさき  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
くさくさまらぬむらさきくさくさ  
心のまらぬむらさきくさくさ

二十五番

左 孫

益 保

むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ

右

智 将 持

むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ

二十六番

左

敦 仲

むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ

右 孫

むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ

右 孫

孫 令 下

むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ  
むらさきくさくさまらぬむらさきくさくさ





くろくはられちきりたつとくしめりしうら  
はらへまのちりくくはらまのちりまのち  
りくはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり

二番

左 孫

實房

くろくはられちきりたつとくしめりしうら

右

徳成

いふこのまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり  
くはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり  
くはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり

くろくはられちきりたつとくしめりしうら

三番

左 孫

言忠

いふこのまのちりくはらまのちりくはら

右

忠道

いふこのまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり  
くはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり  
くはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり  
くはらまのちりくはらまのちりくはら  
まのちりくはらまのちりくはらまのちり

四番

左 孫

何忠





八十中て神のめくも乃多り申すの世に於たの事一たふ那  
 右号之と紙よりくくくく傳ふれ今生云此昇  
 進掃望跡不存者也云々云々一乃云の事  
 有くといはく心実正也云々後也定神感歎  
 右号八旬之号歎隆傾七社之壇云媯今生之宿縁  
 已尔後世之引存何類りん云々の事云々  
 尤可然歎但右乃よりいふ事云々云々  
 又ちく右乃多り申す事云々云々云々  
 やあらん云々れともれ刺子之中驚馬有驥之一  
 毛不可得為驥龍有蛇之一鱗不可得為蛇大徳  
 可以掩小瑕小火為能洞枯干と云々云々  
 云々云々不是なりとも云々云々云々云々  
 云々云々おと云々

十番

左 後

徑盛

云々云々乃志事也云々云々云々一方云々云々

右

徑盛

云々云々乃志事也云々云々云々一方云々云々  
 云々云々の事多し云々云々乃白いとれ云々  
 云々云々右号云々事云々云々早以左者傍

十一番

左 持

脩範

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

右

形家

我乃云々云々世云々云々云々云々云々云々云々  
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々









り東のまゝの神よまらせよとてしむの編をあらもたらす  
たれま山藍乃神ふらわとてはまん事とて  
あつすまのんを信なるも一た乃号丸の神ふは  
りせまをてしむりしむもいさるも一もいお神  
とてせりわらわらおらひし

二十四番

た

季廣

さうちの神のちひとれむいそまつむ歌のだとてあわら  
右様 後お

ちとせまつら葉のしりらとてれめ神ふ神宮そけつ  
た心さゆうあふしつむあけさ乃ちとくやら  
せの福乃とせまく信らん右ちとせまつら葉のあ  
ハ編さうらほし葉もいさるわていけ也以右為係

二十五番

た

道徳

おもつらまらとてあつらひしあふ(又葉もむむいさるあ  
右様 智おお

我々のむむ後乃がらとてししのみおあつらとていさる  
たのまのいさるいさるあつらた一葉乃いさるあつて  
もやまをいさるいさるあつらつらつら作者ふらわ  
ありまをいさるいさるあつらつらつらつらつらつら  
まひまのいさるいさるあつらつらつらつらつらつら  
りしあふいさるいさるあつらつらつらつらつらつら

二十六番

たお

敦伸

新しその神山りまらとてまらとてあつらつらつらつら

右

務命

いふにこそしるしむるにあらむとて  
たその神にこそまかすべしとて  
ありおほし

二十七番

右

務命

世よすまはしむるにあらむとて  
たその神にこそまかすべしとて  
ありおほし

右

務命

新續古

やうらば月のうららきよき  
たその神にこそまかすべしとて  
ありおほし

てし信者の社乃二号合ふやん  
ありおほし

二十八番

右

親整

ありおほし

右

安性

我ためは後  
ありおほし



